

平成 23 年度（2011 年度）

福島大学 FD プロジェクト活動報告書

～大学教育改善の追求～



2012 年 3 月

福島大学 FD プロジェクト





## 1.はじめに

福島大学 FD プロジェクト

責任者 中村民雄

本年 4 月より、FD プロジェクトは実働組織から、教育担当副学長の下で教育の質保証を評価・検証する組織に改編した。これは、本学が目指す人材育成方針を明確にし、学士課程教育の質保証のため、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー），教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー），入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）と一体化させる必要があったからである。

そのため、初年次の学習スキルを育むことを目的とした『学びのナビ』『学習ポートフォリオ』は大幅に改訂し、学生が使いやすい冊子にした。冊子の項目は、初年次学生に身に付けてもらいたい学習スキルに特化し、見やすさと、メモ書きできるよう見開きで完結する内容にまとめた。また、昨年までのものは Web 上に移し、印刷の無駄を大幅に減らした。これらの改訂は、合宿研修で学生や FD プロジェクト委員との協議会で議論されたものを集約し、委員会で検討を重ねたものである。また、「学生による授業アンケート」は授業改善に資することを目的とした項目設定とするため、現在詰めの作業をしているところである。特に、学生と教員との信頼関係に立った意見集約のしくみづくりに努力しているところで、紙ベースの一方通行から、Web による双方向のアンケートを考えている。ただし、Web に切り替えた他大学では集計数が極端に減少したことが報告されており、アンケート数の維持と有用な改善意見とをどう確保するかが課題である。この二つの課題をとりまとめるに当たって、前者はナビ WG、後者はアンケート WG というワーキンググループをつくり、学生の意見を反映させた上でとりまとめた。

その他、FD・SD ジョイントセミナーとして、「ICT（情報通信技術）」「教職協働」をテーマに開催した。アカデミアコンソーシアムふくしまとの連携事業は、本学が改訂した『学びのナビ』を配付する段階にとどまっており、連携大学における初年次教育での活用は、平成 24 年度実績を待たねばならない。さらに、授業公開と検討会は 4 つの授業で行われた。これらは「こま・ちえプロジェクト（こまつたなーよくある授業のなやみごと、それに応える知恵と工夫）」の授業実践記録集や本報告書に掲載し、多くの教員が授業改善の一助として活用していただければ幸いである。

最後に、新たな段階を迎えた FD プロジェクトとして、教育の質保証システムの構築から、次年度以降は「教育方法・内容の質の検証」と「学習の質・成果の検証」が求められている。そのため、学習成果の計測や評価基準を作成し、外部の評価機関と連携した評価システムの構築が急がれている。FD プロジェクトをその中心に据えた全学体制の構築が喫緊の課題として浮かび上がっていることを記して結びとする。



平成 23 年度  
福島大学 FD プロジェクト活動報告書

～大学教育改善の追求～

目 次

1.はじめに	副学長 中村 民雄
2.授業公開&検討会	
今年度の実施日程 .....	1
第1回授業公開&検討会（授業者 嶽 成男）授業者からの報告（嶽 成男） .....	2
第2回授業公開（授業者 長谷川 珠子）参観者からの報告（渡部 芳栄） .....	4
第3回授業公開&検討会（授業者 初澤 敏生）授業者からの報告（初澤 敏生） .....	6
第4回授業公開&検討会（授業者 徳竹 剛）授業者からの報告（徳竹 剛） .....	8
授業公開&検討会に対する私見…まとめとして .....	10
授業公開&検討会配布資料 .....	11
3.他大学 FD 研修等参加報告	
第33回大学教育学会大会（2011年6月4日～5日） .....	13
Q-Links 第2回 CD プロジェクト（2011年8月25日～26日） .....	14
第61回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会（2011年9月1日～2日） ..	15
帝京大学高等教育開発センター第2回 FD フォーラム（2011年9月17日） .....	16
首都大学東京 FD セミナー（2011年10月6日） .....	17
第9回 ポートフォリオ・LMS の先端事例研究セミナー in 京都（2011年10月7日） .....	18
佛教大学第1回 FD 研究会（2011年10月13日） .....	19
平成23年度会津大学文化研究センター公開セミナー（2011年10月22日） .....	20

大学評価フォーラム（2011年10月26日）	21
沖縄国際大学 FD 支援プログラム勉強会（2011年11月4日）	22
ポートフォリオ活用セミナー（2011年11月7日）	23
Business Analytics Forum Japan 2011（2011年11月9日）	24
大学教育学会課題研究集会（2011年11月26日～27日）	25
関西国際大学 GP フォーラム（2011年12月3日）	26
文科省委託事業シンポジウム（2011年12月11日）	27
東北大學 国際シンポジウム（2012年1月24日）	28
第3回教学実践フォーラム 教学IR国際セミナー（2012年1月27日）	29
広島大学教育GP総括シンポジウム（2012年2月7日）	30
4.東北地域大学教育推進連絡会議	31
5.FD・SD ジョイントセミナー	33
6.FD宿泊研修	37
7.各学類のFD活動	47
8.「教育改善のための学生アンケート」集計結果 「教育改善のための学生アンケート」（前期）集計結果	51
「教育改善のための学生アンケート」（後期）集計結果	75
9.福島大学FDプロジェクト要項	98
10.福島大学FDプロジェクトメンバー	100
11.あとがき	101





2.授業公開&検討会

# FDワークショップ 授業公開&検討会





## 今年度の実施日程

- ・日 程：12月20日（火）1時限
- ・授業者：巖成男 先生（経済経営学類）
- ・実施概要：授業公開「アジア経済論」（M24 教室）  
検討会 授業終了後（S24 教室）
  
- ・日 程：12月21日（水）1時限
- ・授業者：長谷川珠子 先生（行政政策学類）
- ・実施概要：授業公開「労働法」（S21 教室）  
検討会 なし
  
- ・日 程：1月17日（火）4時限
- ・授業者：初澤敏生 先生（人間発達文化学類）
- ・実施概要：授業公開「子どもを取り巻く社会」（S21 教室）  
検討会 授業終了後（S22 教室）
  
- ・日 程：1月19日（木）1時限
- ・授業者：徳竹剛 先生（行政政策学類）
- ・実施概要：授業公開「地域史II」（S21 教室）  
検討会 授業終了後（S棟1F 第一会議室）



## 第1回 授業公開

日 時 平成 23 年 12 月 20 日 (火) 1 時 限  
8:40~10:10 授業公開 (M24 教室)  
10:20~10:50 検討会 (S24 教室)  
授業科目 「アジア経済論」  
授業者 厳成男 先生 (経済経営学類)



### 授業者からの報告

厳 成 男

FD プロジェクトの授業公開を終えて

当日のテーマは「アジア労働市場の変容—柔軟性と安全性の同時拡大に向けて—」であった。本授業(アジア経済論)の全体内容の構成における位置づけは「アジア経済発展の大きな特徴である輸出主導型成長と労働市場の関係を、日本、中国および韓国労働市場の変化を中心に説明する」というところである。

話は、まずアジア諸国が、輸出主導型成長から内需主導型成長への転換を図っているが、それが国内における労働市場の変容に伴う雇用・所得の安定性の低下のもとで、困難になっていることからはじめ、次に、日中韓三カ国労働市場における雇用の柔軟化(非正規雇用の拡大と正規と非正規雇用の間の格差拡大)が、安全性による保障を得ないまま拡大している

ことに由来していると説明し、最後は、労働市場における柔軟性と安全性の同時拡大に成功したヨーロッパのフレキシキュリティ(Flexicurity)戦略を紹介し、アジア労働市場の制度改革においてもその理念を取り入れることが必要ではないか、という問題提起を行った。



普段より若干多めの内容構成となり、フレキシキュリティの内容に関する丁寧な説明と理解を深めるための受講生とのやり取り(質問の受け応え)を省いてしまっている点に関しては、次回の講義における「前回の要約」の部分で補足しようと考えている。自分が専門として領域であるがゆえに、説明を簡略化しすぎたような気がする。

本授業は、福島大学における最初の講義科目でもあり、現在も模索を続けている段階ではあるが、アジア社会経済システムの実態に関しては、受講者が比較的に多く接しているという想定のもと、さまざまな変化の背景にある理論的枠組みの説明を心かけながら、講義内容を構成している。当日の授業も「成長体制」と「賃労働関係」、および「雇用制度と技能形成、社会保障システムの間の制度的補完性」の変容という経済理論を、取り上げた労働市場の変容に関する諸データの説明と合わせながら行った。

講義終了後の受講生を対象に行ったアンケート調査と、他の先生方との交流は、大変役に立ったと感じている。今後の講義内容の構成や授業の進め方について、率直かつ非常に有意義なコメントをいただいた。授業後は毎回、自分なりに反省点をまとめ、次回に生かせるようにしているが、経験豊かな先輩の先生方から、アドバイスを受ける機会をいただいたことは、今後の講義をさらに充実したものにする上で、必要であったと感じている。



## 第2回 授業公開

日 時 平成 23 年 12 月 21 日 (水) 1 時 限  
8:40~10:10 授業公開 (S21 教室)

授業科目 「労働法」  
授業者 長谷川珠子 先生 (行政政策学類)



### 参観者からの報告

渡 部 芳 栄

長谷川珠子先生の「労働法」の授業を参観させて頂きました。授業の内容及びそのバックグラウンドについて私は専門家ではありませんので、主に授業の進め方や学生の様子に注目して参観しておりました。

長谷川先生の授業スタイルは、レジュメを配布して、学生に内容を説明するという、一見旧来型の進め方でした。しかし、学生はボーっとしている訳ではなく、一生懸命メモしたり、アンダーラインを引いたりと、割と「能動的な」学生が多いように見えました。また、時折学生に対して問い合わせをされていて、決して一方向だけの授業ではありませんでした。たまに行う学生への問い合わせが良いのか、声や話し方がはっきりしている点が良いのか、内容がしっかりとしているのが良いのか…などなど、自分への示唆を色々考えながら参観させて頂きました。

福島大学の FD を支援する立場にいる私は、後掲の「他大学 FD 研修等参加報告」の「首都大学東京 FD セミナー」「佛教大学第 1 回 FD 研究会」など、授業方法に関する研修等にも参加をしてきました。現在の大学はユニバーサル化、多様化し、そのこととほとんどイコールの意味で学生の質は低下したと言われています。だからこそ大学は変わらなければならぬ、授業の方法も工夫しなければならない、そのように言われ続けてきました。そのような理由から、各種研修等に参加してきたところです。

しかし、そんな自分としては良い意味でショックを受けました。学生主体型（学生参加型・双方向型）授業は最近の流れですが、それを具現するやり方は色々あるのではないだろうかと感じました。単純なことですが、どんな学生を相手にしているのか・どんな内容

の授業なのかによって、その方法は変えられるし、変えなければならないのだと思いました。入学したての1年生相手に学説を延々と話し続けるのもよろしくないでしょうし、専門の基礎を学ばなければならない2~3年生相手に、山ほどある“教えなければならないこと”をいちいちワークショップなどをして考えさせるのも効率的とは思えません。長谷川先生の授業は、適度に考えさせ、伝えたいことはきちんと伝えていた、そのような感じでした。

パワーポイントも流行りですが、授業の全体像が分かるレジュメの良さも再認識しました。長谷川先生のレジュメは、余計なことは書かれていません、適度にメモができるスペースが取られている、それでいて授業の骨格が非常に的確に示されていて、「今この授業の中でどんな位置づけの内容を話しているのか」というのがとても分かりやすいものでした。授業で使用する資料についても、既述のようにどんな学生を相手にするのかによって変える必要性はあると思いますが、長谷川先生のレジュメについては、どんな学生相手でも参考になる作り方だと感じました。

私は、次年度より主に1年生を対象とする授業を開講する予定になっておりますが、今回感じたことに気を付けて、よい授業を作っていくたいと思います。授業を公開してくださいました長谷川先生、本当にありがとうございました。





## 第3回 授業公開

日 時 平成 23 年 1 月 17 日 (火) 4 時 限  
14:40~16:10 授業公開 (S 21 教室)  
16:20~17:00 検討会 (S 22 教室)  
授業科目 「子どもを取り巻く社会」  
授業者 初澤敏生 先生 (人間発達文化学類)



### 授業者からの報告

初 澤 敏 生

### 授業のねらい

この授業は学部時代の「社会科概説」にあたるものであり、改組後、現在の名称に変更されたが、現在でも小専科目（社会科）として位置づけられている。このため、この授業では小学校社会科の内容ができるだけ網羅的に取り上げている（下表参照）。

授業を行うにあたっては、単なる教科書解説ではなく、最新の研究成果を取り入れるように努め、授業研究や教材開発を進めるための視点に気づけるようにすることを目指している。なお、社会科との連携を視野に入れた生活科や総合的学習の内容などについても触れるようにしている。また、今年度は震災を受けて防災教育に関する内容を多く取り上げた。

### 授業の構成

- 1 時間目：ガイダンス 空間認識とは何か？
- 2 時間目：子どもの心象環境と「身近な地域」 通学路の環境認識
- 3 時間目：安全教育（子どもはどこで犯罪にあっているのか） 子どもの遊び
- 4 時間目：身近な地域の地形と土地利用 絵地図から地図へ
- 5 時間目：環境教育のカリキュラム構成 商店で働く人々の工夫
- 6 時間目：住みよい暮らしをつくる（ごみ処理と上下水道、リサイクル）
- 7 時間目：安全な暮らしをまもる（消防と警察）  
防災学習①2004年の豊岡市円山川水害
- 8 時間目：防災学習②津波とハザードマップほか
- 9 時間目：野外活動を行うにあたっての留意点 主な国の名称と位置
- 10 時間目：郷土の歴史と文化（民俗学入門を含む） テレビ局と新聞社の活動
- 11 時間目：日本の農業（稲作）をどのように学習したら良いか
- 12 時間目：日本の工業（自動車工業）をどのように学習したら良いか
- 13 時間目：日本の歴史をどのように学習したら良いか①（古代～鎌倉時代）（本時）
- 14 時間目：日本の歴史をどのように学習したら良いか②（室町時代～明治維新）
- 15 時間目：現代日本の政治  
(日本国憲法と大日本帝国憲法、現在日本の政治制度、三権分立)
- 16 時間目：テスト

### 成績の評価

成績は出席とテスト（60点）、レポート（40点）（上記の学習の中から課題を見つけ出し、それについて調べ、まとめる）によってつけている。出席は出席管理についてのみ使用し、出席点は加算していない。

テストとレポートの双方を課しているのは、評価基準が違うためである。テストでは授

業の理解度を問い合わせ、レポートでは研究能力の基礎を評価している。テストでは授業内容から出題し、それに対してどの程度理解しているのかを論述させている。これは通常のテストと同じである。一方、レポートは自分の問題関心に応じて課題を自ら設定し、それに取り組むことを求めている。これには卒業論文への準備という意味も込めている。レポートはインターネットからの切り貼りを防ぐために手書きとし、分量は400字詰め原稿用紙で15～20枚とした。

### 本時の内容

本時は小学校6年の歴史学習の前半部分を取り上げた。授業の前半では歴史区分（古代、中世、近世など）と史観に関する説明を行い、後半では古代から鎌倉時代までの歴史を「転換点」に注目しながら解説した。なお、ここで言う「転換点」とは、例えば古代と中世など、時代の境界を指す。

授業では、まず最初に学習指導要領に基づく小学校における歴史学習の特徴について取り上げた。歴史学習は一般的に歴史の流れに沿っていろいろな出来事を学ぶ「通史」を中心として行われるが、小学校では42人の「人物」に関する学習を通じて歴史をとらえる学習を行うことが求められている。これは子どもの発達段階に基づく配慮とされているが、人物学習を進めるためにはその背景となる「時代」の学習が不可欠であり、両者を行うことが必要であると考える。

そこで、授業では次の段階として、「時代区分」を行うことを通して、その「時代」の特徴をとらえた。どの時代もそれが登場する時には合理的で「時代の要請にマッチした」ものである。しかし、時間の流れに応じて次第に矛盾が積み重なり不合理なものになっていく。それが限界に達した時（「転換点」）、新しい時代へと変化する。このため、「転換点」を押さえればその前の時代と後の時代の特徴をとらえられるとともに、「なぜ時代が変わらなければならなかったのか」をとらえることが可能になる。これは、本実践において「転換点」を取り上げた理由である。なお、「転換点」のとらえ方は時代区分の方法によって異なる。今回取り上げた古代、中世などの区分方法は、学生たちが学んできた高校世界史の時代区分方法とは異なる。これは歴史のとらえ方、すなわち「史観」が異なるためである。授業では、「史観」の持つ意味についても取り上げた。

これはさらに「歴史学習の必要性」とも結びつく。「なぜ過ぎ去ってしまった昔のことを学ぶのか？」「そんなことを学んでどうするのか？」という疑問は歴史学習につきものである。学校教育における歴史学習は、「過去の歴史を覚える」ことではなく、「時代の流れを理解することを通して現在の意味と、その中で自分の生きる方向を見いだす」ことを目的としている。その意味で、歴史は「暗記するもの」ではなく、「未来を見るためのもの」である。授業においては、特にこの点を強調した。

授業の後半では「聖徳太子の政治～壬申の乱」と「鎌倉幕府の成立」を例に説明を行った。後者では、「平清盛」「源頼朝」「源義経」の3人を取り上げたが、それぞれの人物の果たした役割をとらえるためにまず平安時代の特徴とその変化を押さえた上で、その内包する矛盾が武士の勢力の拡大に結びついたこと、それを革命的に転換させたのが源頼朝が実

施した諸政策であったこと、この結果、鎌倉時代の特徴は平安時代とは大きく異なることになったこと、などを指摘した。これと合わせて、平清盛や源義経の持つ限界性などについてもとらえていった。

学生たちはこのような歴史のとらえ方には慣れていないかったようで戸惑いも感じたが、これまでとは違う歴史に気づいてくれたものと思う。この授業は取り扱う内容の幅が非常に広く、教材研究に苦労している。不完全な点も多く、学生諸君には申し訳なく思っている。今後研究を積み重ね、よりよい授業を作っていくたい。





## 第4回 授業公開

日 時 平成 23 年 1 月 19 日 (木) 1 時 限  
8:40~10:10 授業公開 (S 21 教室)  
10:20~10:50 検討会 (S 棟第一会議室)  
授業科目 「地域史 II」  
授業者 徳竹剛 先生 (行政政策学類)



### 授業者からの報告

徳 竹 剛

#### 1. 授業の概要

「地域史 II」は、行政政策学類「社会と文化」専攻の専攻主要科目の一つであり、行政政策学類の 3 年生以上を対象とする授業である。シラバスでは「近代日本形成期の政策展開と、その中での地域の動きについて考察し、近代日本の地域史について理解を深めるために、本授業では、明治前半期の東北開発に関する構想や意見、現状認識等についての歴史資料を読み解きながら、東北開発政策の展開やその中での地域振興運動について講義」すると授業概要を説明し、また教育目標として①近代日本形成期の東北地方の歴史についての理解を深める、②歴史資料の読み解き方を習得する、③歴史学における「地域史」の意義や有用性について理解する、の 3 点を掲げている。

授業の受講者は 13 名（社会と文化専攻 7 名、地域と行政専攻 4 名、法学専攻 1 名、他 1 名）であり、3 年生と 4 年生がほぼ半数ずつ占める。

#### 2. 公開した授業の内容

公開した授業は「地域史 II」11 回目の授業であり、出席者は 10 名であった。授業は、「大久保利通の東北開発構想（2）」と題して行い、大久保利通が暗殺された日の朝に行われた大久保と福島県令山吉盛典との会談内容を記した「済世遺言」という歴史資料と、「済世遺言」の作成経緯を記した歴史資料を提示して、大久保利通の殖産興業政策の構想とそれに対する福島県側の意向を明らかにしようとしたものであった。授業では、提示した歴史資料を読む上で必要となる背景（今回の場合は、大久保と福島県令が会談することになった理由や会談内容に関する事項説明等）について解説した上で、提示した歴史資料を読む時間を受講者に与え、その後、私が歴史資料を読み進めながら授業を展開した。

### 3. 授業に対する感想・意見

授業終了後、検討会の素材の一つとして、受講者にアンケートを実施して授業に関する評価や感想を書いてもらった。歴史資料を提示し、それを読み解きながら授業を進めるというスタイルに対しては、高校までの歴史教育のあり方とは異なる新鮮さや歴史上の登場人物の生の声に接しているという感触があるようで、好意的な評価を得た。その一方で、歴史資料が難しい、授業を分かりやすくするための工夫が足りないという指摘もあった。

検討会では、受講者が少人数であることもあることあって、例えば受講者に事前に課題を出して報告してもらうとか、歴史資料を読む時間を与えているのだから受講者に発問するなどのやりとりを取り入れてはどうかといった提案をいただいた。また、授業を行う上で困っていることや気がかりなことなどについてもヒアリングがあり、私自身の考えを改めて整理する機会ともなった。

### 4. 今後の課題

行政政策学類には歴史学に関するゼミが複数存在し、そうしたゼミに参加している学生には歴史資料に触れる機会が少なからずある。しかし、多くの学生には歴史資料を読む機会はなく、私の授業で初めて目にするという学生もいるはずである。「地域史Ⅱ」の受講を選択したとはいっても、こうした学生にとっては、授業中に与えられた時間の中で歴史資料を読み進めるのは難しかったのかもしれない。授業アンケートで授業評価が分かれた理由は、授業の素材である歴史資料との接触機会の差に起因するところが大きいと思われる。こうした受講者の間での経験や素養の差をどうやって埋めていくのか、そのための工夫を考える必要がある。

この点については、検討会で指摘していただいたことであるが、歴史資料に即して考えることの重要性を、折に触れて繰り返し説明することが必要であるように思う。また、レスポンスペーパーを書いてもらったり、小レポートを課したりするなどして、授業の理解度に関する受講者間の差異を測る機会を作り、受講者の反応を見ながら授業の進め方を調整することも必要であろう。

受講者による報告形式や受講者に対する発問という方法を取り入れるということについても今後検討してみたい。今回のように受講者が少人数であれば、報告形式を取り入れる余地はある。発問という方法を取り入れるのであれば、もう少しゆっくりと歴史資

料を読む時間を取り、漢和辞典等の持ち込みを受講者に求めるなどの準備をする必要がある。受講者の授業に対するより一層の参加と、それにともなう緊張感の維持について工夫する方法はまだあるように感じる。これらについても検討を続けたい。

最後に、授業公開・検討会に参加して下さった皆様に感謝いたします。



## 授業公開&検討会に対する私見…まとめとして

総合教育研究センターFD部門 渡部芳栄

今年度は、4件の授業公開を行いました。授業公開してくださった先生方のほとんどは今年度着任された先生で、大変な思いをされたかと思います。先生方、ご協力ありがとうございました。

ただ、参観者があまり集まらなかったのは、近年の傾向通りでした。多忙を極める先生方の時間的制約もあるかと思いますが、そもそも授業公開&検討会のイメージは、とても明るいものとは言えないように思います。そこにはいくつかの理由が考えられますが、公開者であれば何を言われるか分からぬという不安や恐怖感もあるでしょうし、参観者であれば意見を求められても何を言っていいか分からぬ、などの理由があるかもしれません。

もしそうであるとすれば、この授業公開&検討会をフォーマル過ぎない形に変えて行くことも1つの手ではないでしょうか。具体的には、公開者が希望しなければ検討会は開催しない、参観者にも検討会への参加は強制しない、などです。もちろん、面と向かう形で意見や感想、不安などを共有する、というのはとても意味のあることですが、そこを和らげることで公開者や参観者が増え、皆さんがそれぞれ自分の課題や悩みに応じて何かを感じじうことができるのならば、それも悪くないのではないかと思う。もっと気軽に参加できる授業公開&検討会づくりも、考える価値があるかもしれません。

また、公開者を増やす手立てをしては、授業アンケート結果をもとに公開者を選定することも考えていく必要があるかと思います。公開者が増えない理由には、上記の他に「自分の授業を公開する」ということがともすれば「自分の授業は優れている」ということを示すかのように感じ、戸惑う先生もいらっしゃるのではないかと思う。授業アンケート結果から、「先生の授業のこういう部分は学生から指示されているので、ぜひ授業を公開してほしい」(ただし全体の満足度といった漠然としたものではなく、授業の進め方、資料作成の仕方、声の出し方、双方向授業の仕方と言った具体的な指標に基づく。)というお願いをすれば、引き受けやすいかもしれませんし、そのことで悩みを持っていらっしゃる先生方には目的意識を持って参観して頂けるかもしれません。

今年度、FDプロジェクトの先生方には、公開者の選定に関してご尽力を頂き、誠にありがとうございました。所属する学類の先生には同じ学類の先生にお声掛けして頂くほうが多いと思いましたが、もしかすると同じ学類教員であるが故のご苦労や悩みを押し付けてしまったのではないかとも思っております。公開者の選定に関する改善とともに、依頼の方法に関しても改善が必要かもしれません。

課題は多いですが、次年度以降の授業公開&検討会につきましても、ご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

## FDワークショップ 授業公開＆検討会に向けて —授業者と参観者の皆さんへ—

福島大学 FD プロジェクト

福島大学では、今年度のFDワークショップとして「授業公開＆検討会」を開催することになりました。実際の授業をお互いに見せ合って、具体的に授業をどう改善していったらいいかみんなで話し合おうという試みです。福島大学全体の授業力量充実・向上のためにも、授業を公開された方が「皆さんに見ていただけてよかった」と思えるような、また参観者の方々も「今度は自分の授業を見てもらおう」と思えるような、そういう会になることが必要です。そのために以下の諸点に注意しながら、授業公開＆検討会に参加してください。

- 1) 「授業公開＆検討会」の目的は授業改善であって、だれかを批判したり、非難したりすることではありません。みんなが前向きになれるような明るいムードの会にしましょう。
- 2) 授業者は、ふだんどおりの授業を心がけてください。他の先生方が聴いているからといって、いつもより高度な内容に触れたりすることのないようにしてください。
- 3) 参観者は、その授業の「いいところ」を発見し、自分の授業にも生かすよう、心がけてください。
- 4) 参観者は、学生と一緒にになって授業の内容だけに集中しないでください。大事なことは、授業中の学生の反応であり、学生がどのように学んでいるかという事実です。授業の内容や授業者の行動の変化によって、学生は敏感に反応しているはずです。学生は、どのようなときに授業に集中し、どのようなときに集中力を失っているのでしょうか。
- 5) 参観者は、今日参観した授業が、15回分の1回であるということにも留意してください。
- 6) 教室の環境などにも留意して参観してください。
- 7) 検討会の場では、参観者が授業者を讃めることからはじめましょう。授業者も過度に自己反省の弁を並べたてる必要はありません。大学教育に関しては誰も皆、素人みたいなものなのですから、お互いにアイディアを出しあって、それぞれが抱える問題を解決していくましょう。

(注意) 授業公開中の**教員同士の私語**は、学生の受講の妨げになりますので、くれぐれも慎んでください。

## FD ワークショップ 授業公開&検討会 授業観察カード

\* 授業者と授業名 ( : )

【観察の視点(例)】 ① 授業技術に関して ② 授業運営・授業構成に関して ③ 授業の目標・達成度・理解度・満足度・内容に関する取り組みや工夫 ④ 学習活動・学生の参加度に関する取り組みと工夫 など

観察の視点	参考になつた点	疑問や課題が残った点
【メモ】		

この観察カードは、授業参観時・検討会時のメモとしてご活用ください。



### 3.他大学 FD 研修等参加報告

- ◇第 33 回大学教育学会大会（2011 年 6 月 4 日～5 日）
- ◇Q-Links 第 2 回 CD プロジェクト（2011 年 8 月 25 日～26 日）
- ◇第 61 回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会（2011 年 9 月 1 日～2 日）
- ◇帝京大学高等教育開発センター第 2 回 FD フォーラム（2011 年 9 月 17 日）
- ◇首都大学東京 FD セミナー（2011 年 10 月 6 日）
- ◇第 9 回 ポートフォリオ・LMS の先端事例研究セミナー in 京都（2011 年 10 月 7 日）
- ◇佛教大学第 1 回 FD 研究会（2011 年 10 月 13 日）
- ◇平成 23 年度会津大学文化研究センター公開セミナー（2011 年 10 月 22 日）
- ◇大学評価フォーラム（2011 年 10 月 26 日）
- ◇沖縄国際大学 FD 支援プログラム勉強会（2011 年 11 月 4 日）
- ◇ポートフォリオ活用セミナー（2011 年 11 月 7 日）
- ◇Business Analytics Forum Japan 2011（2011 年 11 月 9 日）
- ◇大学教育学会課題研究集会（2011 年 11 月 26 日～27 日）
- ◇関西国際大学 GP フォーラム（2011 年 12 月 3 日）
- ◇文科省委託事業シンポジウム（2011 年 12 月 3 日）
- ◇東北大学 国際シンポジウム（2012 年 1 月 24 日）
- ◇第 3 回教学実践フォーラム 教学 IR 国際セミナー（2012 年 1 月 27 日）
- ◇広島大学教育 GP 総括シンポジウム（2012 年 2 月 7 日）



## 第33回大学教育学会大会（2011年6月4日～5日）

総合教育研究センターFD部門 渡部芳栄

1. テーマ：大学教育の質とは何か—ふたたび大学のレゾンデートルを問う—

2. 会場：桜美林大学（多摩市・相模原市）

3. 内容・スケジュール

(1日目)

9:00～9:30 新会員及び初めて参加される方のためのオリエンテーション

9:40～12:10 シンポジウムⅠ

12:10～13:10 昼食

13:10～14:10 総会

14:20～15:20 基調講演

15:30～18:00 シンポジウムⅡ

18:00～20:00 懇親会

(2日目)

9:00～12:00 ラウンドテーブル

13:15～16:30 自由研究発表

4. 報告

本学からは中村教育担当副学長、手代木先生（経済経営学類）、川越先生（共生システム理工学類）、丸山先生（総合教育研究センターFD部門）、大橋氏（教務課共通教育担当）と渡部の参加があった。本大会については、2011年8月26日発行の「共通教育アリーナ」（第60号）にて、各参加者より報告をしたところであるので、そちらに譲りたい（職員専用掲示板にて閲覧可能）。

## **Q-Links 第2回 CD プロジェクト (2011年8月25日～26日)**

総合教育研究センターFD部門 渡部芳栄

1. テーマ：カリキュラム編成に影響を与えていたものは何か？

2. 会場：国民宿舎 虹の松原ホテル

3. 内容・スケジュール

(1日目)

10:30～ 開会式  
10:50～ オリエンテーション  
12:30～ ストーリーセッション  
14:35～ ファシリテーションラフィックセッション  
15:50～ ダイアログ①  
17:00～ ソロウォーク  
20:00～ LABO Bar (懇親会)

(2日目)

10:00～ ダイアログ②  
13:00～ アクティビティ  
13:30～ インタビュー&ダイアログ①  
14:20～ インタビュー&ダイアログ②  
15:10～ 全体のふりかえり  
15:45～ 閉会式

4. 報告

Q-Links（九州地域大学教育改善 FD・SD ネットワーク）は、九州地域の大学が共同で FD・SD を行うための組織と言える。今回の CD（カリキュラム開発）プロジェクトは、短期型（合宿型）の企画で、もちろん報告者は最も遠方からの参加であった。

上の内容を見れば分かるように、普通の FD や SD（講演会・セミナー等）とは、大きくやり方が全く異なっている。恐らく通底しているのは「答えを見つける」というよりは、「ひたすら考える機会の提供」ということなのではないかと感じた。Q-Links 事務局のスタッフは、一貫してファシリテーター役に徹しており、参加者同士の交流を促す様々な工夫がなされていた。上のダイアログというのは、「議論」ではなく「対話」であり、自分もきちんと会話に参加し、相手の話をしっかりと聞くことを意識し、時間もしっかりと管理されていた。FD・SD とは、講演会やセミナーに参加することがメインなのではなく、一人一人が考え、意思疎通をすること自体なのだとつくづく考えさせられた。

## 第 61 回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会 (2011 年 9 月 1 日～2 日)

総合教育研究センターFD 部門 渡部芳栄

1. テーマ：学士課程教育における教養教育の意義を問う

2. 会場：秋田大学

3. 内容・スケジュール

(1 日目)

10 : 00～10 : 20 総会 I

10 : 20～12 : 00 全体会 I

13 : 30～17 : 00 分科会

- ・第 1 分科会「高校と大学の接続性に着目した取組」
- ・第 2 分科会「学習や教育課程の充実に着目した取組」
- ・第 3 分科会「大学と社会の接続性に着目した取組」

17 : 30～19 : 30 情報交換会

(2 日目)

9 : 30～11 : 30 全体会 II

- ・事例報告：「全学基礎教育課程『武蔵野 B A S I S』について」
- ・分科会報告及び意見交換

11 : 30～12 : 00 総会 II

12 : 10～13 : 00 幹事大学会議

4. 報告

本学からは中村教育担当副学長、白石先生（人間発達文化学類）、村上先生（行政政策学類）、丸山先生（総合教育研究センターFD 部門）、古関氏（教務課共通領域担当）、三留氏（教務課現代教養・教務情報担当）と渡部の参加があった。本大会については、2011 年 12 月 26 日発行の「共通教育アリーナ」（第 61 号）にて、各参加者より報告をしたところであるので、そちらに譲りたい（職員専用掲示板にて閲覧可能）。

## 帝京大学高等教育開発センター第2回FDフォーラム（2011年9月17日）

総合教育研究センターFD部門 渡部芳栄

1. テーマ：教員・職員・学生、三位一体の大学改革を展開する

2. 会場：帝京大学八王子キャンパス 11号館 1181教室

3. 内容・スケジュール

13:00～13:10 開会挨拶

13:10～13:45 講演①

講演者：松本美奈氏（読売新聞社教育取材班記者）

講演題目：「山登りより川下り『大学の実力』調査から」

13:45～14:45 講演②

講演者：ブルース・ストロナク氏（テンプル大学ジャパンキャンパス学長）

講演題目：「チームとして大学改革に取組むために一管理職に求められるスキルと能力ー」

15:00～15:40 パネルディスカッション

パネラー：ブルース・ストロナク氏（テンプル大学ジャパンキャンパス学長）

松本美奈氏（読売新聞社教育取材班記者）

土持ゲリー法一氏（帝京大学高等教育開発センター長）

15:40～15:55 会場とのディスカッション

15:55～16:00 閉会挨拶

4. 報告

まず『大学の実力』で有名な読売新聞の記者である松本氏より、報告があった。『大学の実力』の調査結果はランキングのような形にせず、読者が自分の興味のある大学をしっかりと読んでもらうような意図があるとの話があり、感心を覚えた。また、学内のトイレ掃除をすることで、付随する問題について考え、単位を与えていたる大学の事例紹介があり、本学の自主学習プログラムとの類似性や、更なる活用の必要性も感じた。

ブルース・ストロナク氏はアメリカのリーダー（管理職）の話をされ、それに比較して日本の大学では責任はあるが権限がなく、効率が悪い・遅い等の嘆き（横浜市立大学学長のご経験から）をされていた。

土持センター長からは、帝京大学の学生参加型FDの取組み（SCOT）の話が少しあり、興味深かったが、討論の時間は15分しかなく、フロアからはわずかに反論・質問等が出たものの「教員・職員・学生、三位一体の大学改革」というテーマを議論するまでには至らなかった。

## 首都大学東京FDセミナー（2011年10月6日）

総合教育研究センターFD部門 渡部芳栄

1. テーマ：大学らしい知にこだわったアクティブ・ラーニング  
—ちょっとした工夫で可能な学生の能動的な学び—

2. 会場：首都大学東京南大沢キャンパス 6号館101室

3. 内容・スケジュール

13:30～13:40 開会挨拶

13:40～14:40 講演

発表者：溝上 慎一氏（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授）

テーマ：「大学らしい知にこだわったアクティブ・ラーニング」

14:40～15:10 質疑応答

15:20～15:40 アクティブ・ラーニングの実践例紹介①

発表者：西山雄二氏（首都大学東京 都市教養学部人文・社会系准教授）

15:40～16:00 アクティブ・ラーニングの実践例紹介②

発表者：福田公子氏（首都大学東京 都市教養学部理工学系准教授）

16:00～16:20 アクティブ・ラーニングの実践例紹介③

発表者：渡辺賢氏（首都大学東京 健康福祉学部教授）

16:20～17:00 ディスカッション

4. 報告

第1部では初めに、京都大学の溝上先生より、アクティブ・ラーニングが必要とされる現在の流れ（From Teaching to Learning）とアクティブ・ラーニングの定義がなされた。アクティブ・ラーニングの内容は実に幅広く（クリッカー・ミニレポート・協働学習・問題発見学習・PBL学習など）、フロアの教員からも「意外と自分もやっていた」という声があった。その中で、「もっと知識にこだわったほうがいい」という一見古そうな言葉を溝上先生が強調されていたのは、強く印象に残っている（知識がなければ、アクティブ・ラーニングは成り立たないという意図だったと記憶している）。

第2部では、首都大学東京の3人の先生方による実践報告があった。いずれも興味深い報告であったが、特に福田先生の話が印象に残った。生物分野の課題について、教員の助言のもと学生が半年かけて実験計画から実践、報告まで独力で行うというものであった。これに対しても、本学の自己学習プログラムとの共通性を感じた。

報告者は現在、学生の成長に結びつく主体的学習に関心を持っている。その1つのヒントがアクティブ・ラーニングであり、報告者にとっては大変興味深いセミナーであった。

## 第9回 ポートフォリオ・LMSの先端事例研究セミナー in 京都 (2011年10月7日)

総合教育研究センターFD部門 丸山和昭

1. テーマ：第9回ポートフォリオ・LMSの先端事例研究セミナー in 京都  
～manabaの運用実績と学習効果～
2. 会場：京都全日空ホテル（京都市中京区堀川通二条城前）
3. 内容・スケジュール  
・10月7日（金）

12:30	開会 株式会社 朝日ネット 代表取締役社長 山本 公哉	
12:35	・基調講演「学習力アップを目指したeラーニングデザイン」 ：熊本大学大学院 教授・教授システム学 専攻長 鈴木 克明 氏	
13:30	・セッション1 「立命館大学における特色ある ポートフォリオの活用」 ：立命館大学 スポーツ健康科学部准教授 小沢道紀氏 文学部准教授 神藤貴昭氏	・セッション2 「manabaを活用した医学教育 —学びは深化したか?—」 ：熊本大学 政策創造研究教育センター 教授 都竹茂樹氏
14:50	・セッション3 「ポートフォリオを活用した大学教員 による高校生への先進的理科教育」 ：大阪教育大学 科学教育センター 特任准教授 仲矢史雄氏	・セッション4 「なぜ、東洋大学では授業支援システム の利用率が4倍に伸びたのか？」 ：東洋大学 情報システム部 情報システム課 主任 藤原喜仁氏
15:50	・パネルディスカッション 「日本と北米の大学におけるICT利用の現状と将来的課題」 ：株式会社朝日ネット顧問 マサチューセッツ工科大学 シニア・ストラテジスト 飯吉透氏 ：京都大学 高等教育研究開発推進センター 准教授 田口真奈氏 ：東京大学 大学教育総合研究センター 助教 重田勝介氏	

### 4. 報告

株式会社朝日ネットが提供する教育機関向け教育支援システム「manaba（SNS機能を持つ“manaba course”とポートフォリオ機能を持つ“manaba folio”がある）」の活用事例を中心としたセミナーであった。本学でのwebポートフォリオ導入をにらみ、セッション1およびセッション3に参加した。セッション1では、立命館大学における事例として、一つにはスポーツ健康科学部の設置申請の際の課題解決手法の一環として、一つには教職履修カルテのシステムとして、それぞれ導入経緯と運用状況の発表があった。セッション3では、大阪教育大学における、大学参加による中等理科教育の振興手法として、ポートフォリオ活用のメリットと、今後の展望が提示された。

## 佛教大学第1回FD研究会（2011年10月13日）

総合教育研究センターFD部門 渡部芳栄

1. テーマ：「黒板とパワーポイントの効果的な活用法」

2. 会場：佛教大学柴野キャンパス 新1号館301号室

3. 内容・スケジュール

16:00～16:05 開会あいさつ

16:05～16:10 開催趣旨説明

16:10～16:50 発表①

発表者：梶川裕司氏（京都外国語大学マルチメディア教育研究センター長／教授）

テーマ：「黒板の効果的な活用法—先生の板書は効果的ですか？—」

16:50～17:20 発表②

発表者：吉川裕介氏（佛教大学・京都外国語大学他 非常勤講師）

テーマ：「英文法1H/2Aの実践報告」

17:20～ 質疑応答

4. 報告

この研究会に参加したのは、内容への関心もさることながら、「“黒板とパワーポイント”という最狭義のFDとも言える内容の研究会が、どういう経緯で企画されたのか」という点を知りたかったからであった。主催は佛教大学教授法開発室という全学委員会の下部ワーキンググループとのことであったが、この研究会を企画したきっかけは学生の授業アンケートで学生からの要望（苦情）が最も多いものを取り上げたということである。学生アンケートは教授法開発室で実施され、自由回答も含めて集計され、FDに活用しているとのことであった。本学のセミナーは総合教育研究センターを中心に企画・実施されているが、授業評価アンケートの活用方法を含め、授業評価アンケートを実施するFDプロジェクトとの連携についても考えていく余地を感じた。

事前申込者は30名弱であったようだが、当日は40名強ほどの参加があったようだ。参加者は報告者が最も遠方からの参加であったようだが、静岡・愛知などからも参加がある一方、京都府内・関西圏内の大学からの参加が多数であった。内容は、黒板もパワーポイントもそれぞれに一長一短があり、場面によって使い分けて使うと有効であると感じた。

## 平成 23 年度会津大学文化研究センター公開セミナー（2011 年 10 月 22 日）

総合教育研究センターFD 部門 渡部芳栄

### 1. テーマ：「大学の教養がいまヤバい」

### 2. 会場：会津大学講義棟 M6 教室

### 3. 内容・スケジュール

13:30～13:40 開会挨拶

13:40～14:10 コーディネーターからの背景説明

コーディネーター：青木滋之氏（会津大学文化研究センター准教授）

14:10～14:30 シンポジストからの課題①

発表者：太田光一氏（会津大学文化研究センター教授）

テーマ：「一般教育の全国的傾向と会津大学のこれからの教養教育」

14:30～14:50 シンポジストからの課題②

発表者：長谷川弘一氏（会津大学文化研究センター上級准教授）

テーマ：「古代ギリシャポリス市民からの教養教育」

15:00～16:00 フロアとの質疑応答

### 4. 報告

本セミナーは、大きく 2 部構成となっていた。

第 1 部は、主催者側からの趣旨説明及び話題提供であった。初めに、青木先生から「教養」の語源や、戦前から戦後における大学の教養主義と没落までの流れ、教養をめぐる近年の議論の動向など話があった。そして、（会津）大学に求められる教養（一般教養）はどうのようなものかを探るという、セミナーの趣旨の説明があった。続いて、太田センター長から、近年の大学設置基準の大綱化以降の流れと、会津大学及び文化研究センターの役割のお話があった。最後に長谷川先生より、古代ギリシャの市民教育の特質と、現代的な可能性についてお話があった。

第 2 部は、フロアとの議論であった。福島大学からの参加は恐らく報告者 1 人であったが、他には大学関係者の他、会津若松市民と思われる方々の参加もあった。議論は、近年の大学生のやる気と動機づけの問題、会津大学の理念の問題、大学の外での課外学習などの話に及んだ（そこでは、会津大学生の読書や新聞を読む機会などの調査結果も提示され、興味深い話があった）。“教養とは何か” という問い合わせへの答えが必ずしも明確に出せたわけではなかったが、市民を巻き込んでの活発な議論であった。

セミナーの概要是、次号『会津大学文化研究センター 研究年報』に掲載予定のこと。

## 大学評価フォーラム（2011年10月26日）

総合教育研究センターFD部門 丸山和昭

1. テーマ：平成23年度大学評価フォーラム  
グローバル時代における新しい質保証  
－国際機関の取り組みからみえる「機能」とは－
2. 会場：東京大学安田講堂（文京区本郷7-3-1）
3. 内容・スケジュール

13:00	開会挨拶 平野眞一（大学評価・学位授与機構長）
13:10 ～ 13:40	講演I 「これから質保証システム－検証結果から垣間みえるもの－」 川口昭彦（大学評価・学位授与機構特任教授）
13:50 ～ 14:30	講演II 「国際連合大学の質保証」 ゴウインダン・パライル（国際連合大学副学長）
14:30 ～ 15:10	講演III 「高等教育における質保証のグローバル化」 デュルク・ヴァンダム（OECD教育局教育研究革新センター所長）
15:40 ～ 16:50	パネルディスカッション ・モデレーター 河野通万（大学評価・学位授与機構研究開発部評価研究主幹） ・パネリスト ゴウインダン・パライル（国際連合大学副学長） デュルク・ヴァンダム（OECD教育局教育研究革新センター所長） 木村孟（文部科学省顧問）
16:50	閉会挨拶 岡本和夫（大学評価・学位授与機構理事）

### 4. 報告

大学評価・学位授与機構が2007年より開催しているフォーラムで、今回で6回目となる。テーマは「グローバル化時代における新しい質保証」で、大学評価・学位授与機構が進めてきた認証評価に対するふり返りと、国連大学及びOECDが進める国際的な質保証の仕組みづくりについての講演の他、今後の日本の高等教育の質保証が抱える課題についてのパネルディスカッションが行われた。評価・質保証政策の方向性についての情報収集のために参加したが、アウトカムベースの質保証の要請が日本に止まらない世界的な潮流であること、また具体的な質保証の仕組みづくりについては他国でも大学人からの反発が大きいとの知見を得ることができ、福島大学の質保証を考える上でも大変に示唆に富むフォーラムであった。

## 沖縄国際大学 FD 支援プログラム勉強会（2011年11月4日）

総合教育研究センターFD部門 渡部芳栄

1. テーマ：「シラバスの「在るべき姿」を考える」

2. 会場：沖縄国際大学 13号館 1階会議室

3. 内容・スケジュール

16:00～16:05 開会挨拶

16:05～17:00 報告

報告者：安岡高志氏（立命館大学教育開発推進機構教授／教育開発支援センター長）

テーマ：「シラバスの「在るべき姿」について」

17:00～17:30 フロアからの質疑・応答

4. 報告

報告タイトルは「シラバスの「在るべき姿」について」であったが、実に幅広い内容を聞くことができた。まず、3つのポリシーの明確化が求められる背景には、「国際通用性」があること、またシラバスほか各種制度の実施（導入）率は高いが、その制度の意味するところを理解しないまま導入しているだけであり、まったく意味がないとのご指摘があつた。その話は単位制にも及び、単位制とはそもそも「手取り足取り学期を通じて学生に勉強させるシステム」であり、単位制を導入している以上、シラバスには教室外の学修をさせる内容が書かれていないければ、やはり意味がないとのことであった。「学生がシラバスを最初しか読まない」という愚痴は良く聞かれるが、それはそういうシラバスを書いていないことに原因があるというご指摘も、なるほど納得した。

その他にシラバスに記載すべきことは、「どのような努力をすればよい成績が得られるか」ということであった。ただ、評価の仕方を示せばいいというのではなく、単位制の「手取り足取り」方針を理解した上で、学期中に学生が努力し続けなければならないような成績評価の在り方としなければならないことである。最終の試験が成績の3分の1を超えるようなことにはなりえず、小テスト・レポート・ディスカッションなどの結果を成績の7割まで反映させるなどを意味することである。それが単位制の下での成績評価であり、シラバスの書き方だという骨子であった。到達目標の書き方にも言及があり、測定できないような書き方ではいけないという話もあった。

その他にも授業評価・セメスター・Cap制・GPA制度・PDCAサイクルなど、豊富な内容を含んでいた。しかし最終的には、達成目標に対する共通認識の醸造と工夫が、今後のFD・SDの目的だという締め括りは、誠にその通りだと感じた。

## ポートフォリオ活用セミナー（2011年11月7日）

総合教育研究センターFD部門 丸山和昭

1. テーマ：ポートフォリオ活用セミナー
2. 会場：TKP東京駅八重洲カンファレンスセンター  
(東京都中央区京橋 2-3-19 TKP 八重洲ビル)
3. 内容・スケジュール

13:00 ～ 14:45	〈第1部〉 「教育の質保証へのポートフォリオ活用」 ：株式会社ハウインターナショナル 濱野 彰彦 氏
15:00 ～ 16:45	〈第2部〉 「教職実践演習の履修カルテシステム化最新事例研究会」 ：株式会社ハウインターナショナル 濱野 彰彦 氏

### 4. 報告

株式会社ハウインターナショナルが提供する電子ポートフォリオシステム「ediea」の活用事例を中心としたセミナーであった。本学でのwebポートフォリオ導入をにらみ、第1部「教育の質保証へのポートフォリオ活用」、第2部「教職実践演習の履修カルテシステム化最新事例研究会」に参加した。

第1部では、近年の高等教育政策における質保証の流れを踏まえたうえで、講師の濱野氏がアドバイザーを務める九州工業大学での取り組み（平成19年度特色GP「学生自身の達成度評価による学修意識改革」）と、同大学でのwebポートフォリオの導入事例が紹介された。九州工業大学では、ポートフォリオの運用において、ディプロマポリシーとの関連付けが図られていたが、実際のディプロマポリシーの策定、及びカリキュラムとの連動、webポートフォリオの導入については、一学科から始めて、徐々に全学に取り組みを広げたとの経緯の説明があり、福島大学における今後の取組につながる、貴重な示唆を得ることができた。

第2部では、教職実践演習の必修化にともなう各大学での教職課程での履修カルテの整備を踏まえて、ハウインターナショナルが関わった各大学での履修カルテ整備の取組と、ポートフォリオシステムを用いたweb化の事例について紹介があった。具体的には、「紙の履修カルテでの運用を行う中で出てきた問題点」「システム導入後に出てきた必要な機能」「先行事例での施策と課題」についての説明が行われた。その他、Q&Aの中で、「教科に関する科目」に関する履修カルテへの記入、及び記入状況の確認が、各大学での課題となっていることが紹介された。また、第1部・第2部に共通する論点として、webポートフォリオについては、初期費用のコストダウンが可能な、ASP型、クラウドサービスとしての導入を模索する必要がある点を、改めて強く感じさせられた。

## Business Analytics Forum Japan 2011 (2011年11月9日)

総合教育研究センターFD部門 丸山和昭

1. テーマ : Business Analytics Forum Japan 2011  
—ビジネスのあらゆる場面に、アナリティクスを—
2. 会場 : ロイヤルパークホテル (東京 水天宮前)  
(東京都中央区日本橋蛎殻町2丁目1番1号)
3. 内容・スケジュール

17:00 ～ 17:45	〈1B-5〉 「事実とデータの蓄積・分析・評価が大学を変える」 学校法人立命館 常務理事／立命館アジア太平洋大学 副学長 本間 政雄 氏
---------------------	---

### 4. 報告

日本アイ・ビー・エム株式会社が主催するビジネス・アナリティクスに関するフォーラムのうち、立命館アジア太平洋大学の副学長の本間政雄氏が講演した「事実とデータの蓄積・分析・評価が大学を変える」のセッションに参加した。福島大学における今後の内部質保証システムの構築に向けて、データ分析の先行事例等から示唆を得るためのセッション参加であった。

講師の本間氏は、文部省の行政官出身で、現職の他にも芝浦工業大学・明治学院大学での外部評価委員長の経験を持ち、「大学マネジメント研究会」の創設者・現会長でもある。講演では、日本の大学が抱える危機（“日本の大学は何故「ガラパゴス化」したのか？”）の指摘の後、今後の大学教育改革に必要な発想が、“事実とデータの蓄積・分析・評価に基づいた合理的政策論争”であるとの言明があった。

本間氏が特に強調したのは、大学教育の成果の「可視化」に基づく、教育力ベースでの大学・学部の差別化である。また可視化のための大学教育の質・成果の指標として、学生による満足度調査、企業による卒業生の評価、就職率・資格取得率、標準修業年限卒業率、中退率、学生相談来所率、留学生・社会人比率、外国人教員比率、女性教員比率、博士号取得教員比率、海外留学生比率、施設・設備・情報インフラ・アメニティ施設の状況、課外活動の参加・支援状況、等々が列挙されたが、なかでも興味をひいたのが、“Generic Skillsと専門知識の獲得状況の可視化のためにグローバル指標”を活用するとの構想であった。

この種のグローバル指標としては、OECDにおいて、大学版 PISAとも称される「AHELO」の開発研究が進んでいる。また米国ではGREやCLAなどの指標が既に広く普及しており、AHELOも、これら米国指標をベースとする方向で議論が進んでいる。本間氏は、このAHELO導入のインパクトが、大学教育の国際競争を加速させることもさることながら、国内の大学間の競争と再編を促すとのビジョンを示した。情報公開の促進とアウトカムベースでの質保証の要請が高まる中、これら国際指標への対応方策について、福島大学でも早期に理解・議論を進める必要があると、強く感じたフォーラムであった。

## 大学教育学会課題研究集会（2011年11月26日～27日）

総合教育研究センターFD部門 渡部芳栄

1. テーマ：大学教育の原点—授業・学生・教養—

2. 会場：山形市中央公民館（山形市）

3. 内容・スケジュール

(1日目)

9:00～9:30 新会員及び初めて参加される方のためのオリエンテーション

9:40～12:10 シンポジウムⅠ

12:10～13:10 昼食

13:10～14:10 総会

14:20～15:20 基調講演

15:30～18:00 シンポジウムⅡ

18:00～20:00 懇親会

(2日目)

9:00～12:00 ラウンドテーブル

13:15～16:30 自由研究発表

基調講演『東日本大震災と大学』、開催校企画シンポジウム『学生主体型授業の可能性』、  
シンポジウムⅠ『実践的な教養教育を求めて』、シンポジウムⅡ『学生支援で学生はどのように変容しうるのか—ボランティア活動支援から—』

4. 報告

本学からは中村教育担当副学長、丸山先生（総合教育研究センターFD部門）、古関氏（教務課共通教育担当）と報告者の参加があった。本大会については、近日発行予定の「共通教育アリーナ」（第62号）にて各参加者より報告するので、そちらに譲りたい。

## 関西国際大学 GP フォーラム（2011 年 12 月 3 日）

総合教育研究センターFD 部門 丸山和昭

### 1. テーマ：2009 年度文部科学省採択

大学教育推進プログラム／戦略的大学連携支援プログラム GP 公開合同フォーラム

「教授過程・学習過程の構造化と学習効果」

—学習支援型 IR と科目クラスター化の成果と可能性—

### 2. 会場：関西国際大学 尼崎キャンパス KUIS ホール

(兵庫県尼崎市潮江 1-3-23)

### 3. 内容・スケジュール

10:00 ～ 10:50	「関西国際大学の教育改革の構造を振り返る ～学習支援・初年次教育からクラスター、学生支援型 IR、 初年次サービスラーニング、ループリックの評価まで～」 濱名 篤（関西国際大学 学長）
10:50 ～ 12:20	基調講演 「大学教育を通じた共通基盤の確立と個性の発揮」 榎本 剛（文部科学省 高等教育局 企画官（兼）高等教育政策室長）
13:20 ～ 14:20	「クラスター化と IR の取組概要と効果の検証」 中尾 繁樹（関西国際大学 学長補佐 教育学部教授） 藤木 清（関西国際大学 学長補佐 評価室長 人間科学部教授）
14:30 ～ 16:30	パネルディスカッション 「教授過程と学習過程におけるマネジメントの必要性」 ・コーディネータ 濱名 篤（関西国際大学 学長） ・パネリスト 川嶋 太津夫（神戸大学 大学教育推進機構教授） 関田 一彦（創価大学 教育学部 児童教育学科教授） 森 朋子（島根大学 教育開発センター 准教授）
16:30	閉会挨拶 上村和美（関西国際大学 学長補佐 高等教育研究開発センター長 人間科学部教授）

### 4. 報告

関西国際大学における大学教育推進プログラム及び戦略的大学連携支援プログラムの成果に関する報告を中心としたフォーラムであった。テーマのサブタイトルが示す通り、関西国際大学における取組は、近年の学習パラダイムに則った諸改革の見本市のような状態である。「ループリック」と称される評価基準の共有や、「科目のクラスター化」など、福島大学において質保証を進めるためのツールとしても、検討の余地のあるアイディアを数多く知ることができた。その一方で、パネルディスカッションでは、「数多くの改革をいかに定着させるかを考えなければならない」との指摘もあり、華々しい改革だけでは終わらない、実質的な効果が問われていると、改めて感じた次第である。

## 文科省委託事業シンポジウム（2011年12月11日）

総合教育研究センターFD部門 丸山和昭

1. テーマ：文部科学省平成23年度先導的大学改革推進委託事業シンポジウム  
「大学における教育研究活動の評価をどう考えるか」
2. 会場：東京理科大学 森戸会館（東京都新宿区神楽坂4-2-2）
3. 内容・スケジュール

13:30 ～	開会挨拶 植木 正彰（東京理科大学副学長） 北原 和夫（東京理科大学教授 調査研究代表者）
13:40 ～	第1部 調査研究の成果報告 「評価をめぐる国内外の動向」 二宮 祐（一橋大学 専任講師） 「国立大学法人制度と評価」 田中 弥生（大学評価・学位授与機構 准教授） 「今後の社会と大学」 白川 優治（千葉大学 助教）
14:40 ～	第2部 パネル討論「大学における教育研究活動の評価をめぐって」 テーマ1 「教育の内部質保証と評価」 テーマ2 「大学と社会の関係の再構築と評価」 パネリスト 上山 隆大（上智大学 教授） 塩川 徹也（東京大学 名誉教授） 田 辺国昭（東京大学 教授） 早田 幸政（大阪大学 教授） 藤 田英典（共栄大学 教授） 吉田 文（早稲田大学 教授） 司会 広田 照幸（日本大学 教授）
	閉会挨拶 常盤 豊（文部科学省大臣官房審議官）

### 4. 報告

文部科学省の先導的大学改革推進委託事業「大学における教育研究活動の評価に関する調査研究」（代表 北原和夫）の中間報告として開催されたシンポジウムであった。同委託事業には報告者も補佐として参加している。大学における教育研究活動について、認証評価、国立大学法人評価、未来の大学像の三点から成果報告が行われた後、昨今の大学界で喫緊の課題となっている「内部質保証」と、より大きな課題である大学と社会の関係の再構築について、幅広い立場からの議論が行われた。

大学評価については、設置基準の大綱化以降、国立大学法人化、認証評価の義務化、及び分野別参考基準の設定と矢継ぎ早に改革が進められてきているところであるが、その全体像は管轄庁である文部科学省においても整理されておらず、政策目的に則した評価の総合的な再検討が求められている。同シンポジウムにおいて、その明確な回答が示されたわけではないが、評価に受け身的に対応するのではなく、大学と社会の関係を再構築するためのツールとして自律的に用いることの重要性が繰り返し表明された。特に北原代表が、各大学に則したステークホルダーの明確化を強調した点が、深く印象に残った。

## 東北大学 国際シンポジウム（2012年1月24日）

総合教育研究センターFD部門 丸山和昭

1. テーマ：東北大学高等教育開発推進センター・国際教育院 国際シンポジウム  
「グローバル時代の大学マネジメントと質保証」  
—Part1「大学における教育マネジメントと質保証」
2. 会場：東北大学 片平さくらホール（仙台市青葉区片平2-1-1）
3. 内容・スケジュール

13:30 ～	開会の挨拶 根元 義章（東北大学 教育・情報システム担当理事）
13:15 ～	趣旨説明 杉本 和弘（東北大学 高等教育開発推進センター 准教授）
13:30 ～ 14:10	講演1 「米国の都市型大規模大学におけるデータ利用による学生到達度の改善」 デイビッド・ドゥエル（アメリカ カリフォルニア州立大学）
14:10 ～ 14:50	講演2 「教育プログラムの健康診断 一機関レベルにおける学士課程プログラムの質保証プロセス」 トッド・ウォーカー（オーストラリア バララト大学）
15:10 ～ 15:50	講演3 「質の保証から質の文化へ—欧州の経験—」 ヘンリケ・トフト・イエンセン（デンマーク ロスキルド大学）
15:50	コメント1 リチャード・ジェームス（オーストラリア メルボルン大学）
16:10	コメント2 大場 淳（広島大学 高等教育研究開発センター 准教授）
	司会（講演・コメント） 羽田 貴史（東北大学 高等教育開発推進センター 教授） 福留 東土（広島大学 高等教育研究開発センター 准教授）
16:50	討議 司会 杉本 和弘（東北大学 高等教育開発推進センター 准教授） 鳥居朋子（立命館大学 教育開発推進機構 教授）
17:50	閉会の挨拶 羽田 貴史（東北大学 高等教育開発推進センター 教授）
	※全体進行 関内 隆（東北大学 高等教育開発推進センター 教授）

### 4. 報告

東北大学高等教育開発推進センター及び国際教育院主催（後援、日本高等教育学会）の国際シンポジウムのうち、一日目に参加した。米国、オーストラリア、デンマークのそれぞれの国情に応じた質保証の取組を知ることができ、大変有意義なシンポジウムであった。特に印象深かったのが、アメリカにおける質保証のアウトカム指標が、「退学率」の低減であったとの報告であった。これは、入学に早く卒業に難い米国の事情を反映してのものであり、入学に難く卒業に易い日本のシステムとは異なる文脈での質保証である。諸外国の質保証の方法論を無批判に受け入れることの戒めとしたい。

## 第3回教学実践フォーラム 教学IR国際セミナー（2012年1月27日）

総合教育研究センターFD部門 渡部芳栄

1. テーマ：大学における根拠に基づく教学改善とIR

2. 会場：立命館大学 朱雀キャンパス多目的ホール

3. 内容・スケジュール

13:30～13:35 開会挨拶

13:35～13:45 概要説明

報告者：鳥居 朋子氏（立命館大学教育開発推進機構教授）

13:45～14:25 報告①

報告者：David A. Dowell 氏（カリフォルニア州立大学ロングビーチ校 戦略的計画担当副学長）

テーマ：「Highly Valued Degrees at California State University Long Beach – Focus on Graduation Rate Improvement」

14:25～15:05 報告②

報告者：Todd Walker 氏（バララット大学 学習・質保証担当副学長）

テーマ：「Program Health Checks – a process for ensuring institutional quality assurance in undergraduate programs」

15:05～15:15 コメント

コメントテーター：米山 裕氏（立命館大学教学部副部長、大学評価室事務局長）

15:15～15:45 パネルディスカッション

15:45～16:00 閉会挨拶

4. 報告

当日の報告者は、前頁の東北大学シンポジウムのメンバーと重複していた。丸山氏の報告の通り、アメリカでは退学率の低減が近年の目標であり、当日 David 氏からあった報告も退学率に関する内容が多くかった。また、Todd 氏の勤務校があるオーストラリアでは大学と大学、大学と国との関係が日本とは異なり、日本ではすぐに採り入れられるような内容ではない感じがした。

しかし、IR が不要だというわけではなく、日本や本学の文脈に合わせて IR を実践する必要があるのだと感じた。IR は完全なシステムではないが、大学の中で何が起きているのかを客観的に提示するものにはなりえる。それを対話のきっかけとすれば、大学の自律性を担保するシステムとなりうるとの趣旨の鳥居教授の発言が印象的だった。“自律的な” 内部質保証システムの 1 つとして、今後のあり方を考えねばならないだろう。

## 広島大学教育 GP 総括シンポジウム（2012年2月7日）

教務課 菊地徹

1. テーマ：「新世代到達目標型教育プログラムの構築」の成果と今後の展開

2. 会場：広島大学図書館 ライブラリーホール

3. 内容・スケジュール

13:00～13:10 開会挨拶

13:10～14:10 基調講演

報告者：生和 秀敏氏（大学基準協会特任研究員、広島大学名誉教授）

テーマ：「求められる内部質保証システムの構築」

14:10～14:40 事業報告

報告者：小澤孝一郎氏（広島大学 学士課程会議議長）

テーマ：「次世代到達目標型教育プログラムの構築」

14:50～15:20 GP評価①

報告者：Connie Eudy 氏（Director, Program for Instructional Excellence）

テーマ：「高等教育の継続的改善の実現にむけた取り組み」

15:20～15:50 GP評価②

報告者：濱口哲氏（新潟大学副学長（学務担当）、入学センター長）

テーマ：「プログラムの到達目標に即した学習成果可視化への試み」

15:50～16:20 GP評価③

報告者：川嶋太津夫氏（神戸大学大学教育推進機構 教授）

テーマ：「学士課程教育のカリキュラム構築と質保証」

16:30～17:20 パネルディスカッション

17:20～17:30 閉会挨拶

### 4. 報告

渡部芳栄教員（総合教育研究センターFD部門）と共に参加。

この教育プログラムの目的は、卒業生に求める能力等（到達目標）を明確にし、それ自身につけた学生を社会に輩出する教育への転換を進めるという点である。取組の背景に、大学を取り巻く環境の変化や社会が求める大学卒業生像の変化など社会の変化に対応しうる学生の輩出がある。プログラムの主な特徴として、1) 質保証の確保と多様な学生ニーズへの対応、2) 卒業生像（到達目標）の明確化、3) PDCA サイクルによる継続的な改善、4) 到達度評価。

課題と展望：①分野を越えた融合の推進②問題発見解決能力向上への全学的取組不足③システムラックレビュー教育改善方法の見直し④シラバスを整理し、予習・復習ができる環境をさらに整える⑤初年次教育とどう関連付けさせていくか⑥フィードバックは絶えずし続ける。



4.東北地域大学教育推進連絡会議

# 平成23年度東北地域大学教育 推進連絡会議開催記録



## テーマ・スケジュール等

1. テーマ：「学生の主体的参加を促す学士課程教育  
—授業評価・初年次教育・学習ポートフォリオ—」
2. 会場：福島大学総合教育研究センター 特別教室
3. 内容・スケジュール  
日程：9月28日（水）  
12:30 受付  
13:00 開会挨拶：福島大学教育担当副学長 中村民雄

### 第1部 基調講演

- 13:10 講演1「学士課程教育をめぐる近年の政策動向とその背景」  
高橋 浩太郎氏（文部科学省大学振興課学務係長）  
13:50 講演2「学生視点の学士課程教育改革とは何か—学生調査結果をベースに」  
山田 礼子氏（同志社大学社会学部教授／初年次教育学会会長）  
14:30 講演3「東北地域教員の能力開発に関する調査結果」  
羽田 貴史氏（東北大高等教育開発推進センター教授）

### 第2部 共通テーマ「学生の主体的参加を促す学士課程教育」

- 15:20 趣旨説明「調査結果と報告大学の選定」  
渡部 芳栄（福島大学総合教育研究センター特任准教授）  
15:30 報告1「学生による授業評価～福島学院における取組み～」  
河野 肇氏（福島学院大学短期大学部情報ビジネス科教授）  
15:50 報告2「岩手大学における初年次教育」  
河田 裕樹氏（岩手大学教育総合センター教授）  
16:10 報告3「ポートフォリオ」  
長沼 将一氏（山形大学教育企画室助教）  
16:30 ブースセッション  
  
17:10 次年度開催校について  
17:20 閉会  
17:30 懇親会

## 東北地域大学教育推進連絡会議開催報告

総合教育研究センターFD部門 渡部芳栄

東北地域に所在する大学によって開催されている「東北地域大学教育推進連絡会議」は、今年度本学が当番校でした。テーマは当番校が自由に決めることができるとのことと、FDプロジェクトが例年メインテーマとしている「学びのナビ」「教育改善のための学生アンケート」と関連の深い、「授業評価」「初年次教育」「学習ポートフォリオ」の3つをテーマとしました。

開催にあたっては、事前に東北地域に所在するすべての4年制大学に「授業評価」「初年次教育」「学習ポートフォリオ」の実施・活用状況を尋ねるアンケート調査を実施しました。アンケート結果の詳細は、拙稿「学生の主体的参加を促す取組みに関する一考察」（総合教育研究センター紀要第12号所収）に掲載しておりますのでご笑覧下さい。

当日は、3人の方に基調講演をお願いしました。文部科学省の高橋氏には、近年の政策動向と背景をユニバーサル化やグローバル化の文脈で整理頂きました。同志社大学の山田先生は、全国学生調査（JCIRP）の分析結果を提示され、高校時代の情報・学生生活・アウトカムに関する客観的なデータを関連付けて分析し、カリキュラム改革やFDにつなげる必要性を指摘されました。東北大学の羽田先生は、大学教員の能力とは何か、どうやれば開発できるのかということ自体が知られていない現状を指摘し、東北地域の大学教員を対象としたアンケート結果を示されました。

その後、私から本会議の趣旨と上記アンケート調査結果の概要をお示しし、3人の先生方に自大学の取り組みについて詳細にご報告を頂きました。福島学院大学の河野先生からは、授業評価結果に対する所見を書く必要があり、場合によっては降給につながるなどの活用事例を報告頂きました。岩手大学の河田先生からは、岩手大学の全貌・学習スキル・ソーシャルスキルなど幅広く所収した初年次教育副読本についてお話をあり、同時に初年次学生へのアンケート結果も提示されました。山形大学の長沼先生からは、山形大学で取り組んでいるGP活動と、そこに組み込まれているe-ポートフォリオシステムの概要についてご説明がありました。

基調講演・個別報告のいずれも興味深い内容を示していましたが、全貌を理解する必要性（基調講演内容）と同時に、各大学でなぜそうした取組みが行われているのか、その経緯等をきちんと理解する必要があると思います。これらの事例を「先進的」と言って、無批判に本学に受け入れることは無意味ですが、本学の文脈では何がどこまでできるのかということを他大学の事例を参考に考えることは大いに意味があることだと思います。他大学の事例等を参考にしながら、引き続き本学のFDとしてどのようなことができるか、考えて行きたいと思います。